環海異聞 十

環海異聞 十一

コーシキの図

コーシキ」ハ「コーテイロ」
ヨリ又「コーテイロ」ハ此
語の近あるゆゑ梳す為
にて家法の法様之し
光変いへり成ゝたゞ其
其事をこゝに授せり

オクチヨ鳥之図

環海異聞巻之一終

島人男女並
少女之圖

額上頭圍よしめる

冠り物の人は

不を削して作り

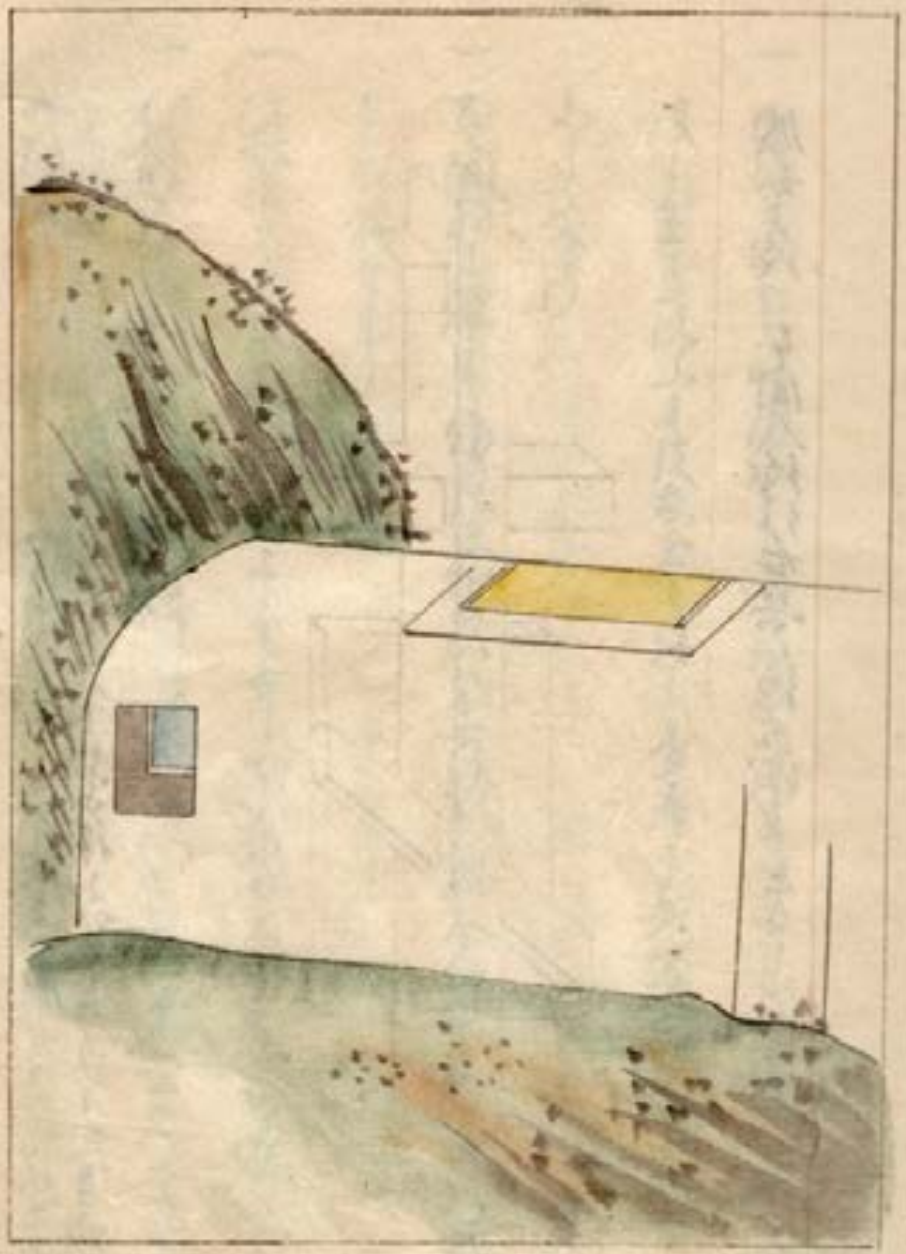
後様に髪を付ける

折巻を作り

セイウチ圖

皮舟全図
二人乗り
三人乗りの
舟なり

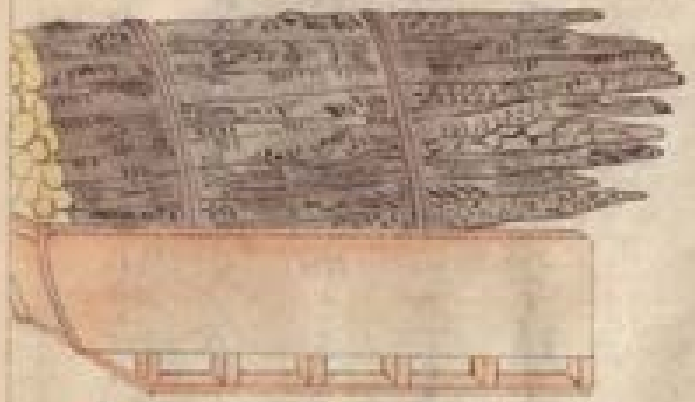
稌全圖



ナアツカ青西亜人居所

造り形は同じく石室なれた
入口は横をしるて板戸を立
博風たいふ[illegible]所は[illegible]
を仕もあて天井の正中には「[illegible]
ウチ」の草を張並く是にて
為ふありそれ且高さを避く
一土室に西十人程住居する所
内は長屋造りのやうし無用は
[illegible]
それぞれに仕切るなり

オホーツク
家屋図



アウタこより以西
人家土室之事
悪い氷つの板を
仕入しまるなり

川氷の上人の乗りは
雪車と四足の馬に
舞する事

車の前に綱をを
る人は馬奴なり
皮紐とかける鞭の
くなる物を以て馬
足とすべし

同年七月三日「オホ
ツカ出立同十二月下旬
イルコーツカ」ヒ着ス

津大夫
清藏
己之助
吉郎次
市五郎
八三郎
民之助

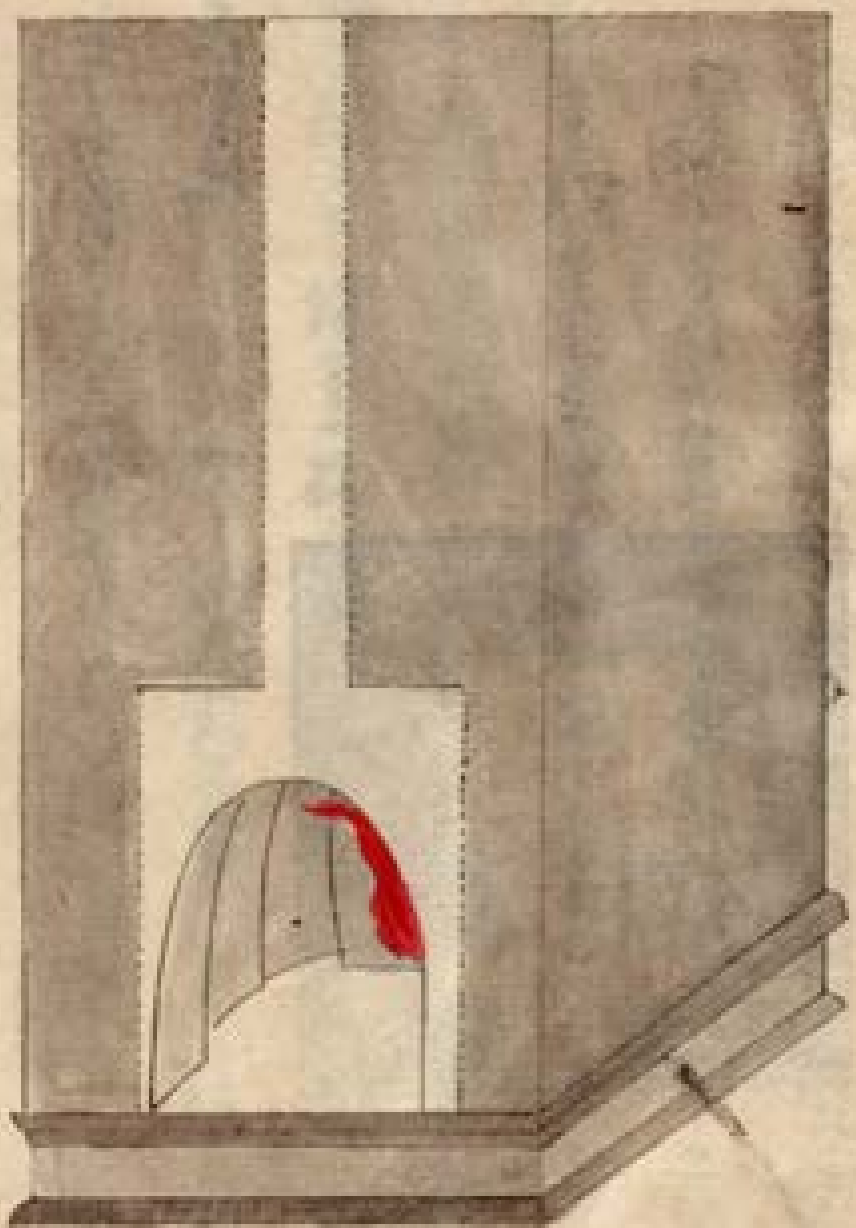
ヤコーツカニテ
病気沖面

津夏ト上ハオホーツカ」ヨリ立の花ハオロシア人事料ニ人ヲ
拂若元ニ七人ニ命ヲハ馬士（ムマヨク）ヤコトテ一ヲ拾六七疋ニ乘リ

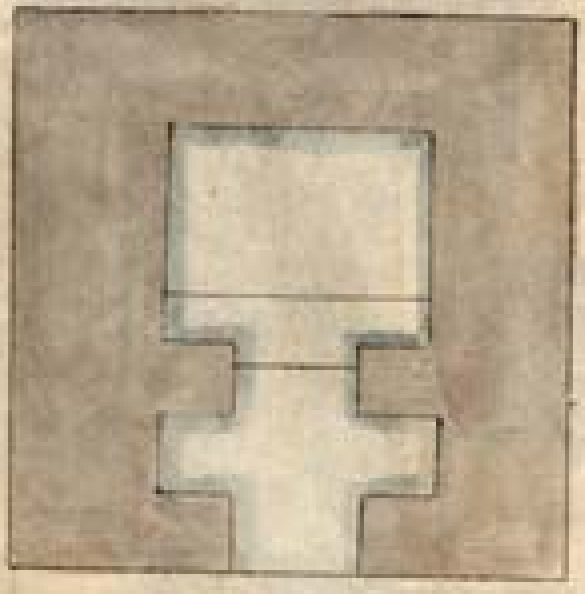
夜の道中左列候ニ相手ヲ取リ出ル事ニ而花ハ

寛政七年乙卯八月十八日
儀兵衛

出立之順次
オホーツカ出立翌八年丙寅
善六
正月廿四日イルコーツカ」ヒ着
辰藏
同八丙辰年五月上旬
左大夫
オホーツカ出立同年
銀三郎
十一月イルコーツカ」ヒ着ス
茂次郎
左平
太十郎



ベイテの土地

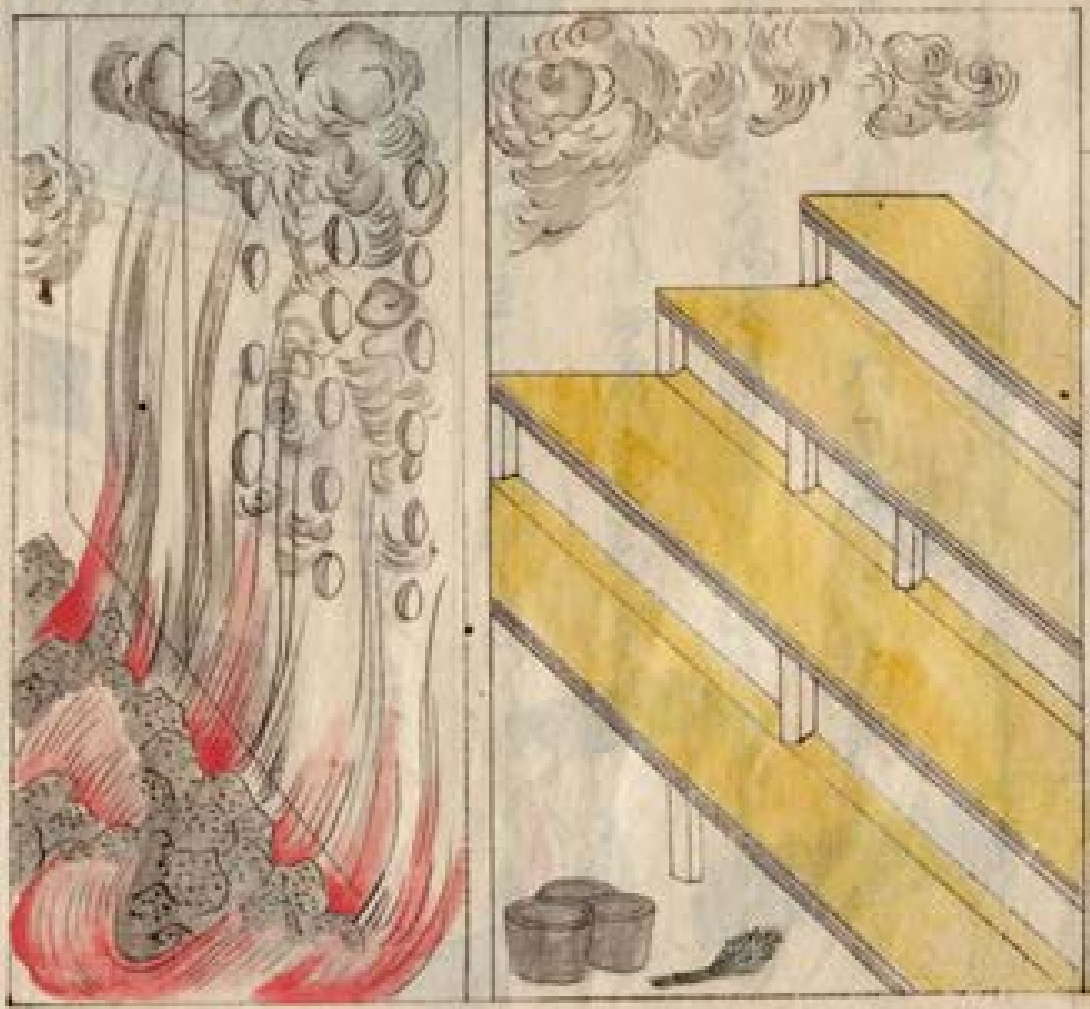


一家の内に男女ともふ椅子にかけて居る形

椅子之図

浴する者の少なる
店の名
小桶
桶の葉等の
枝帯の名

磯石、水をそゝ飛て
湯気を蒸出せる名



白木綿を裂く 先草紙 又裂く白き幅廣のきれを襟へ縫ひて
おしめて食事後也 食物等の汁の内こゝ汚れ汚れを防ぐ為也

牛肉等入れて
灶に入れ煮る
瓶の者

瓶をのせて竈の
肉へおし入れ煮る
鉄箸の事

食盤三つ道具另

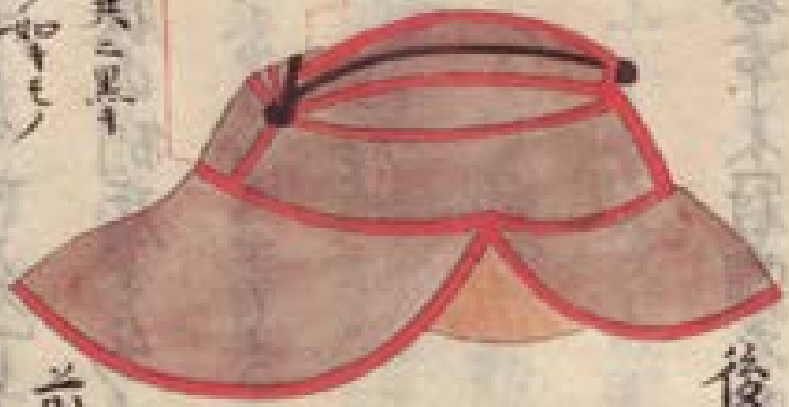
カリトーズ　革帽子　道中専是ヲ用

筋紅革

總テ赤黒色ノモミ革ナリ

タヽム時此折メ内ニ入

前後共ニ黒キホクシノ如キモノナリ



後

ハチノ裏カハ色ノフスベ革也

ヒトヘノトモ革ニテ造

前

カリバーカ　メリヤス頭巾

メリヤスノ如クアミタルモノ也

此ソリメヨリ内ヘ折込ケカムル也

此帽子在省ノ時ハ男女共ニ冠ル也寝ルトキモ冠ル

扨ニ和蘭ニハ「スラープミエッツ」トイフ

睡帽ノ義ナリ

背面

シリバーシカ

肌ヘツケテ着ル繻半ナリ
麻ニテモ作ル

濃浅葱木綿繻半
単總共色

シタイ

薄絹大綿股引

背

背
ネル白布ニテツヽム

カミソー　木綿胴著

畳甲色学

ホーコリザルト云

ボタン共キレニテ包ム

背面
白麻ヒトヘ

フハイカ 胴着

ガミフト同ノ仕立

少シ遠フナリ

白地形付胴着

表白チリメンノ如キ物ニテ縮シ立シタ

總白麻裏

但背白麻草

濃紫

白

白

白

紫キ如同

紋アリ

淡紫

如此

同右

同右

此所物ノ心

此格

ナヨロク　白木綿足ノメリヤス

チョケイ　メリヤス組ニシテ足ヨリ膝マデハメルモノナリ其上ニハ革ニテ作リタル鞆サハキトイフモノヲハメル

シヤーガ　茶色木綿帯　田舎ニテ　セリトークヲ著タル上ヲシメルナリ

ヒダヲトリタヽム

雨ハシニ如此カサリアリ

フサ共ニ一丈二尺六寸五合

ボロケンツザ　白麻手拭　モノニヨケオキテ手ヲフクシ

ボロケイザ
長七尺五寸
幅一尺四寸

兩端如此ロサリ
メリヤスノ如糸ヲ
アミタルモノナリ

ツテセアツ
サラサ 浦團

環海異聞巻之四終

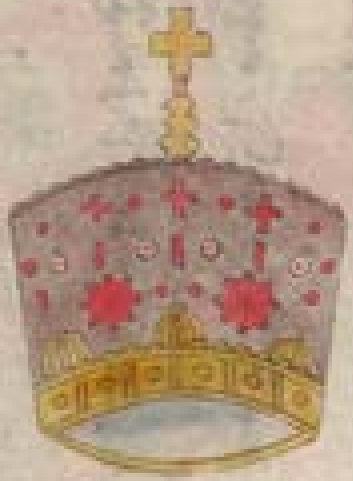
鐘樓圖

太寺表面圖

同堂外圖

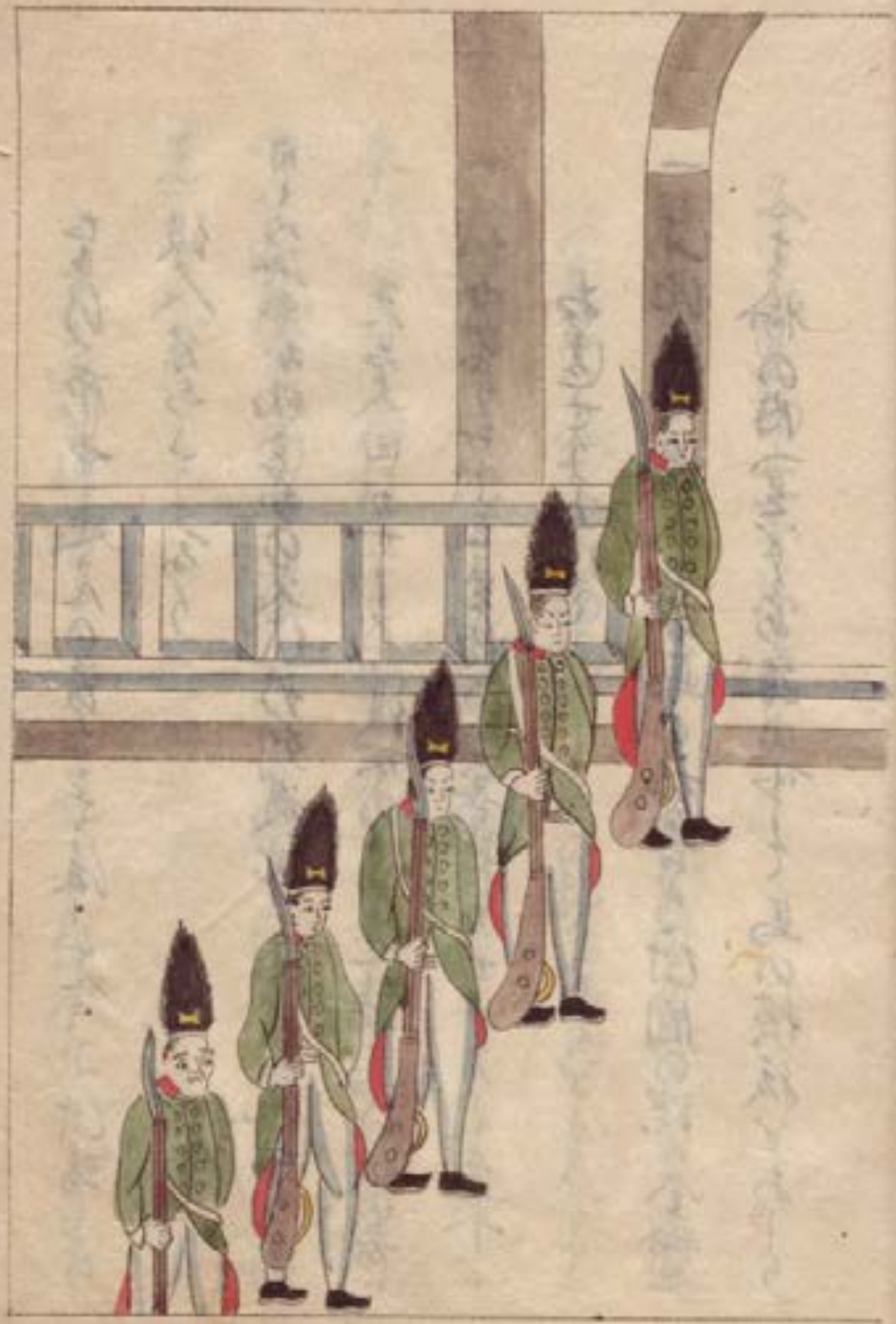
アリベレイ　大和尚　帝より賜ヶ冠帽等

上頂ハ金の十字形帽の上面金銀珠玉を鏤む



一時鐘をあらす寺二十寺ハ定数古回時鳴を之時の事をいふ

十五といふ時ハ数六ツ時ハ半時ハ七ツ五ツ時ハ八ツ五半時ハ



龍吐水ニ皮袋とかけるる
火消道具
和蘭にてハこれを
フランドテボイ上とも

本作りの面横はへし
りを丸鳴をみる

徳廣ニ[illegible]

法諸のとき同ニ直して活説せるとき右のなし此法
等粗写せるものといへ右活説ニ参へ考へるハ大略を
知るべし故ニ此ニ再写す

當十
銭

黒赤

同

左右ハソーホリト云獣

中央ハ女帝ヱカテリナの記号

セニシカ

黒赤色

同

スヱレブロ
銀銭

同

セニシカ

按和菓ノ書ニハテンゲル」又ニンニンゲル」ト云其説ニ云コレ魯西亜ノ銭
和菓ノ「ハテフハルストイヘル」ニアリメル「ストイヘル」ハ重サ二分アル小銀銭之

紙銭 ハガキ銀札

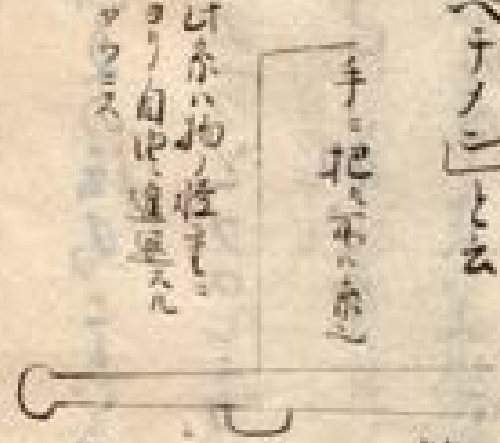
[illegible]

作不毛の地多しといへども其頃の事亦の列部

実に世界第一の鉅部と云へし

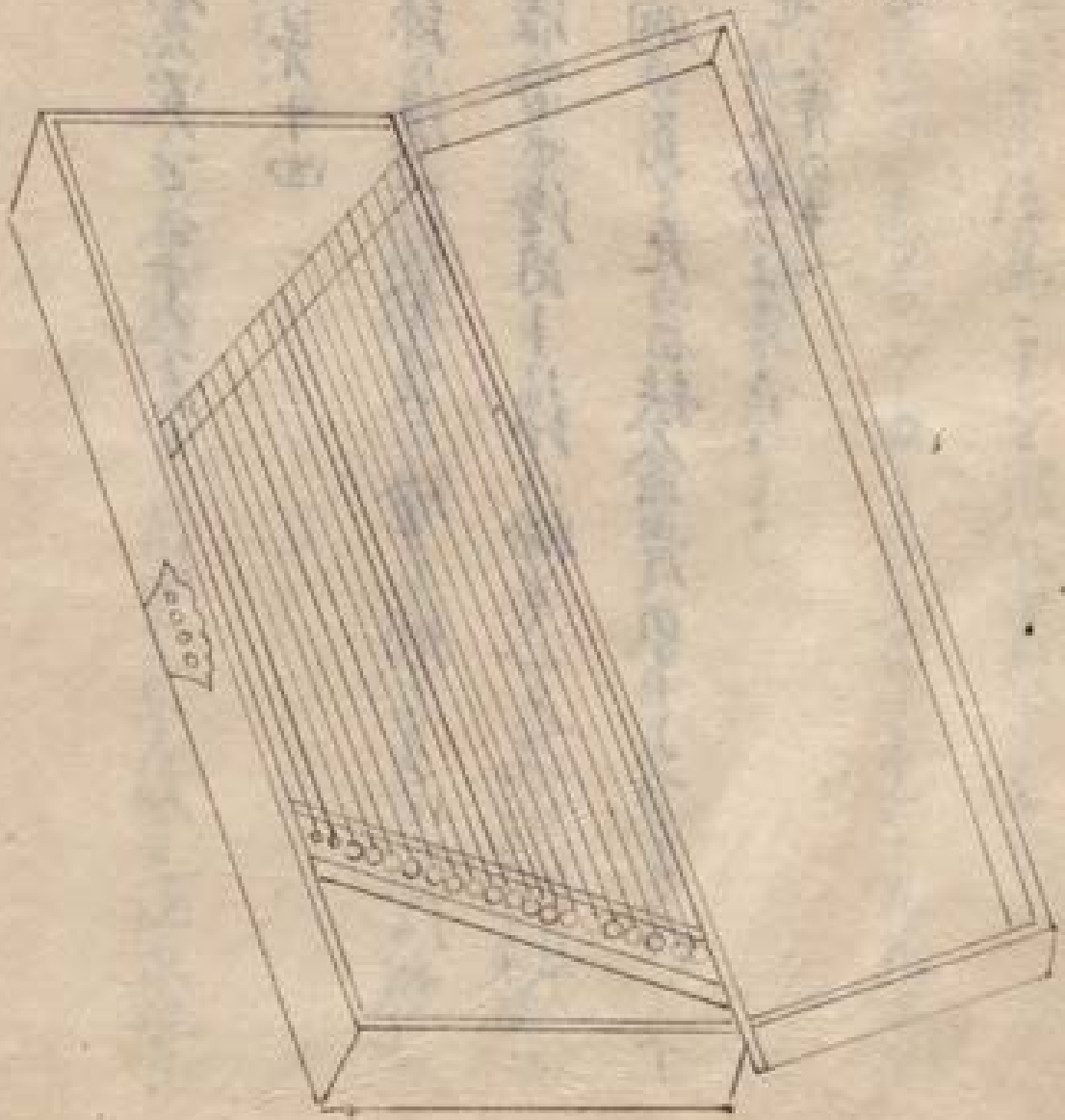
秤量第十三

法馬（コントウ）　分銅也　をベテノ二と云



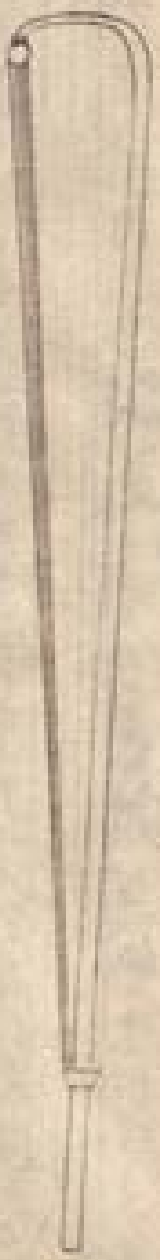
コーシナ

蓋ハ牒つゝひまて
りしめせふるゝ也蓋の
裏ニ曲詞の唱奇
をうなせあり



トウ・ナカ

テレアコ



ハライカ

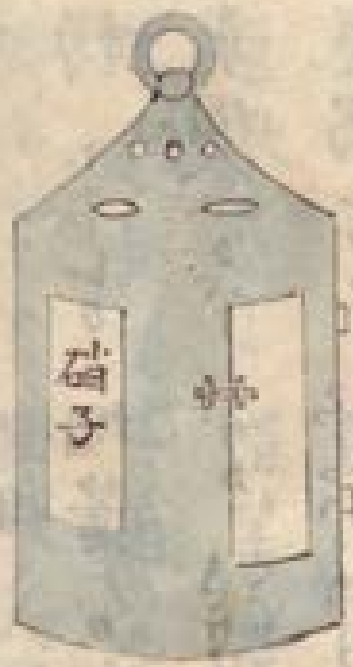
大鞁 ハラハン

又長さ弐尺半にして先に吹く穴さなの方旋回吹物
ヲ名ハ不見 按ニ和葉ニ云トロムベツ上ニ為ル 此外楽器を通して入へきなるよ
凡為ニ此楽の器寒苔孫の附用也 都府にて 龍劇と
凡ちなに雪ちは楽器を以て合奏して楽人 音声の

右物理ニ多ク形状小ナリて形ニ黒ニ縮リ色ニ黒ニ
微人ニ暗記ニ多ク形ニ似て色ニ加ふ縮ム所ニ黒状ヤ凡

ソーボリ 貂 図
尻

焔臺 ホーシユウヱシカ 提燈 ハナレ



ハナレ 板硝子とはもちゝるゆゑ雲母ともうしゝるゆゑ
二種あり

帯 ワイニイカ 櫛 ケレベン 革袋 牛皮

ヒ[illegible]

按ニ和蘭書ニ諸国ハ此ノ内ノ字多く載す爲

とれあるも和

[illegible]

十露盤 シツチヤウ

蘭丞ハメンタアリーと

言辞

草 タラワ　木 セリワ　花 スウエトーシカ クヱトーコ大光

實 セーミヨー　青 セリヨノ　黄 エヒニ

赤 アヽライ　白 ビアライ　黒 チヨリノ チヨリノイ

甘 スワツカ　酸 ケイスナ　辛 ゴリカ

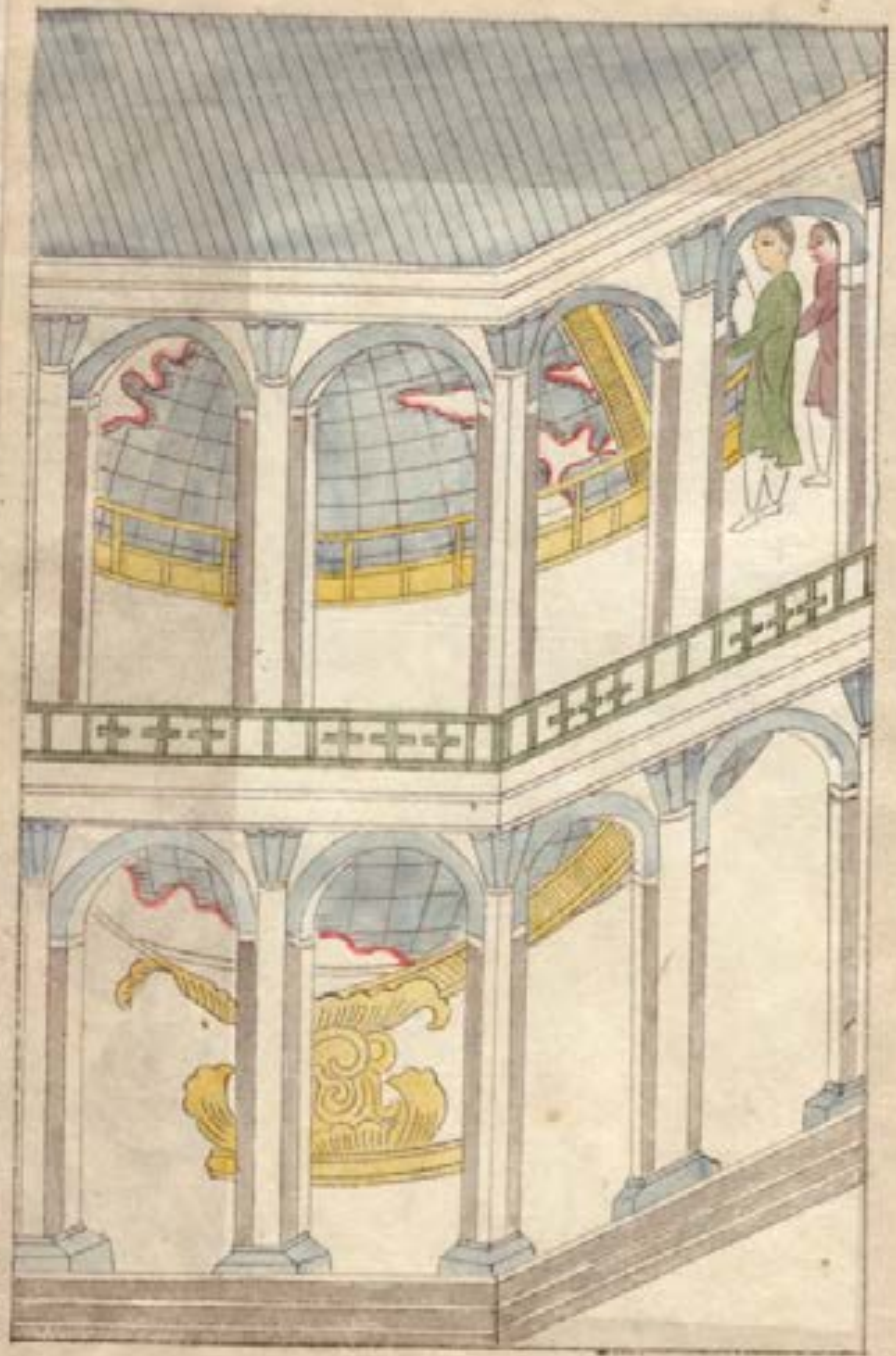
苦 ゴリカ 辛と同し　鹹 ソーリヨーノ　別て鹹ひといふるをシーブコソーリヨーノ」といふ

炭しくしてゆくしといふるを ケレブコソーリヨーノ」といふ　有 エイニ

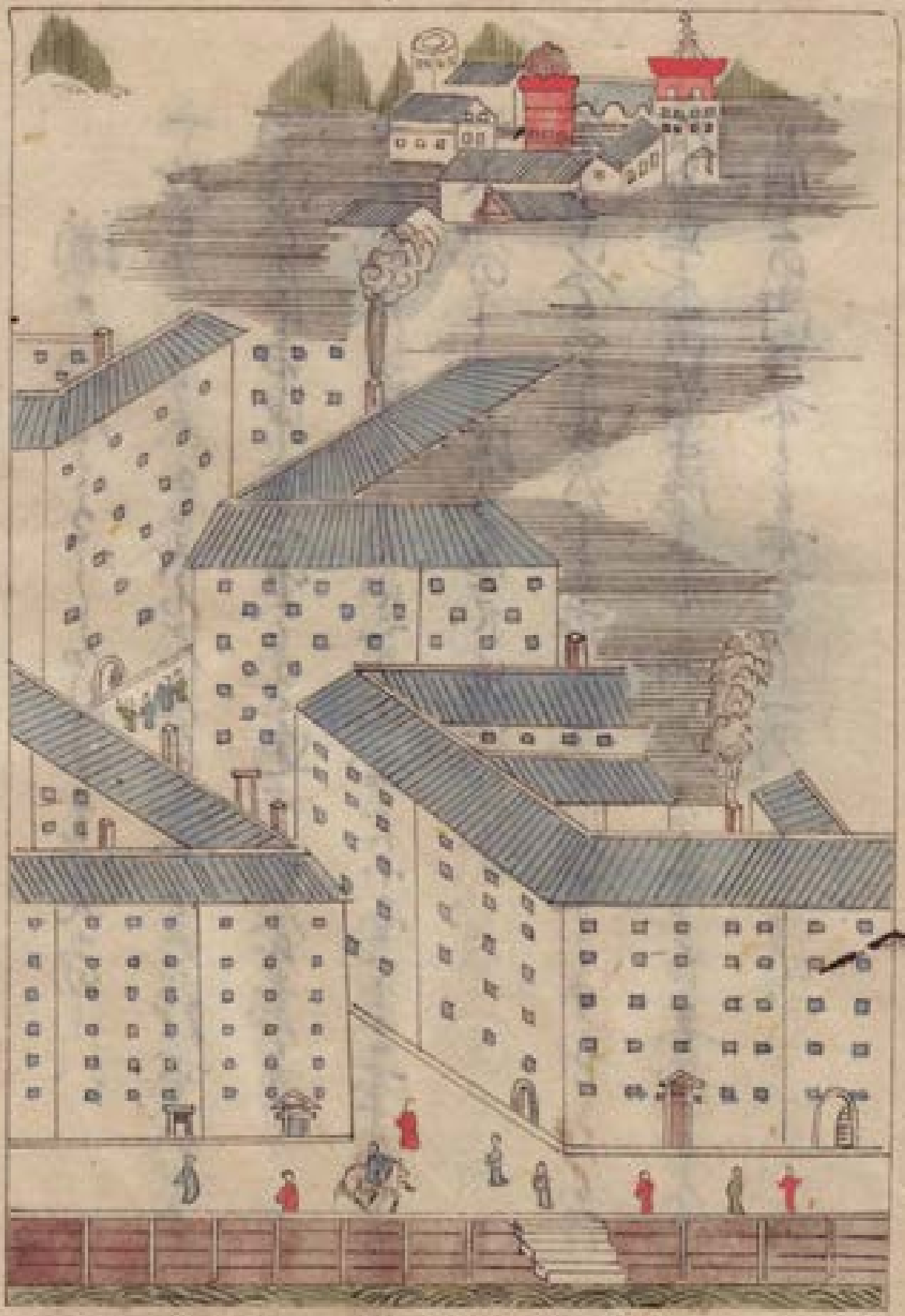
無 子　左 ラネワ　右 ボヲワ

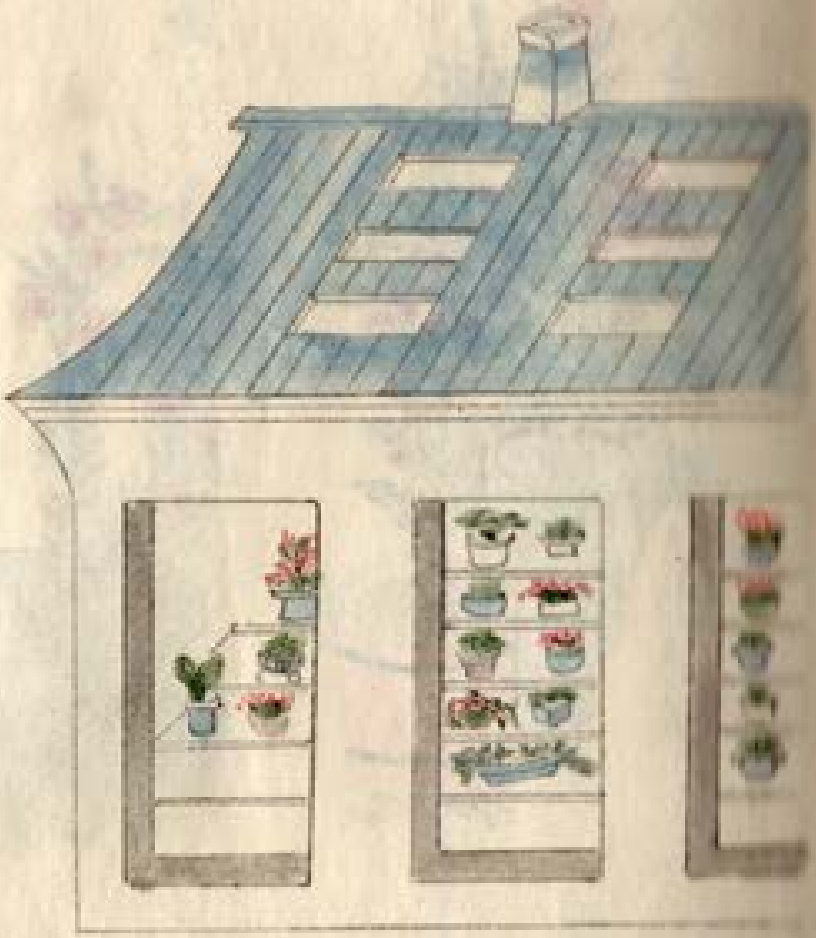
車馬圖

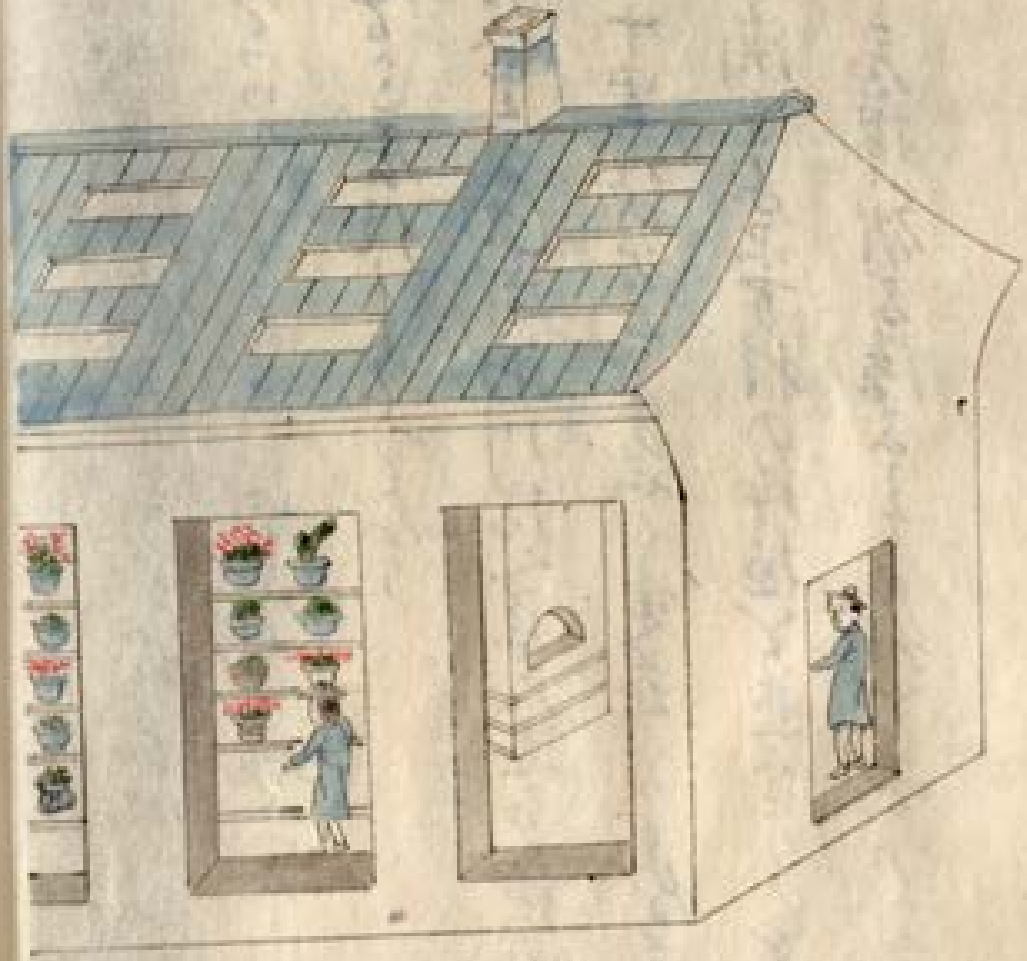
風扇之圖



環海異聞 卷之十 終

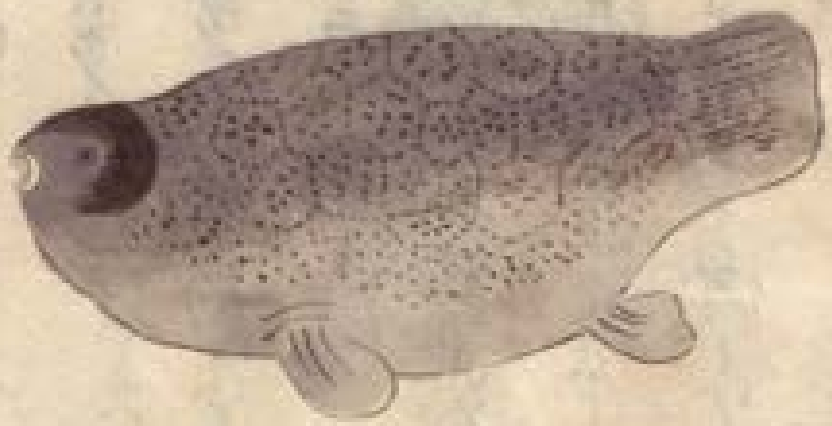






加那斯達湊築出入図

一綿ハ山へも圃にも種蒔きて花天祖の木之葉も大なる
ともに綿(茶綿)の葉に遠ふるなし　梅之木綿花へし
一一異木落赤く卵黄色の所もあるものを祝へ調へ来れり也

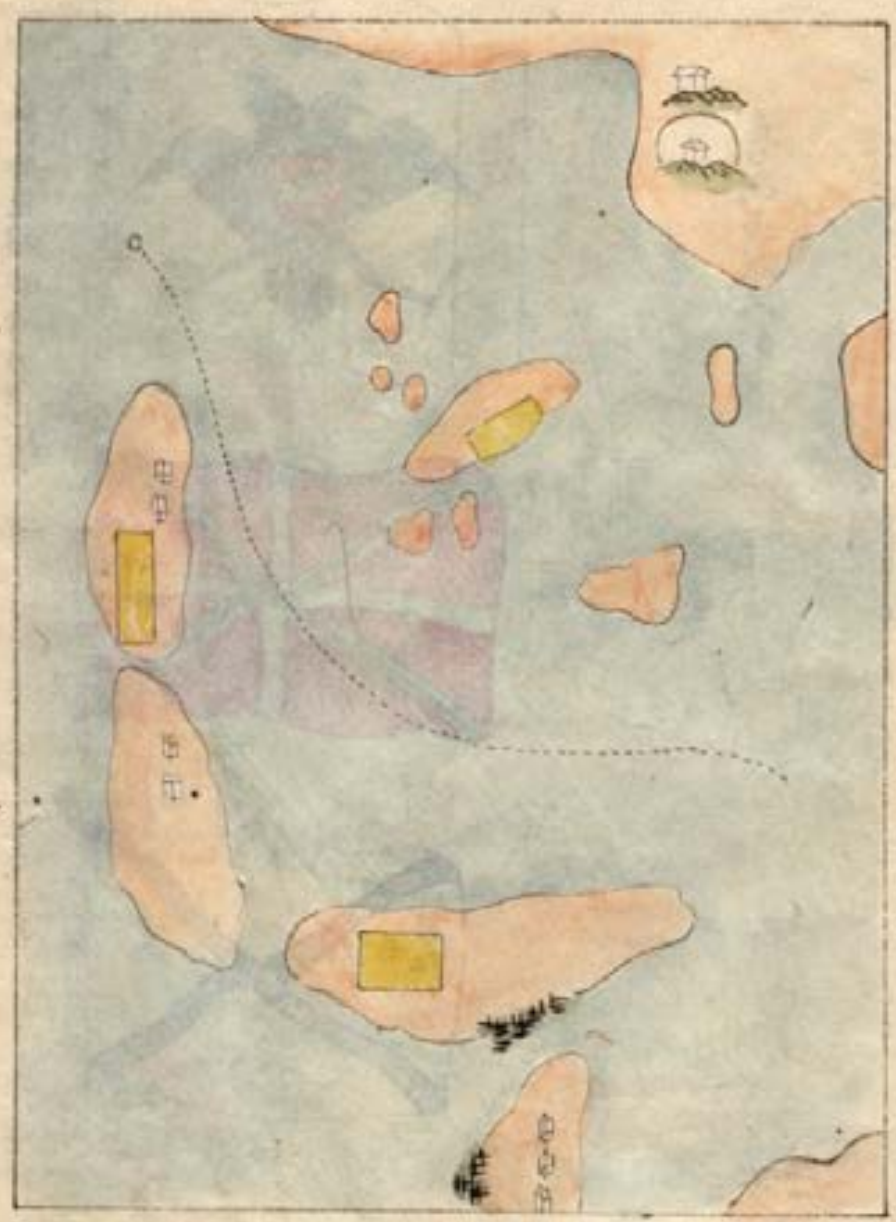


ガルガルビル圖

島人男女圖

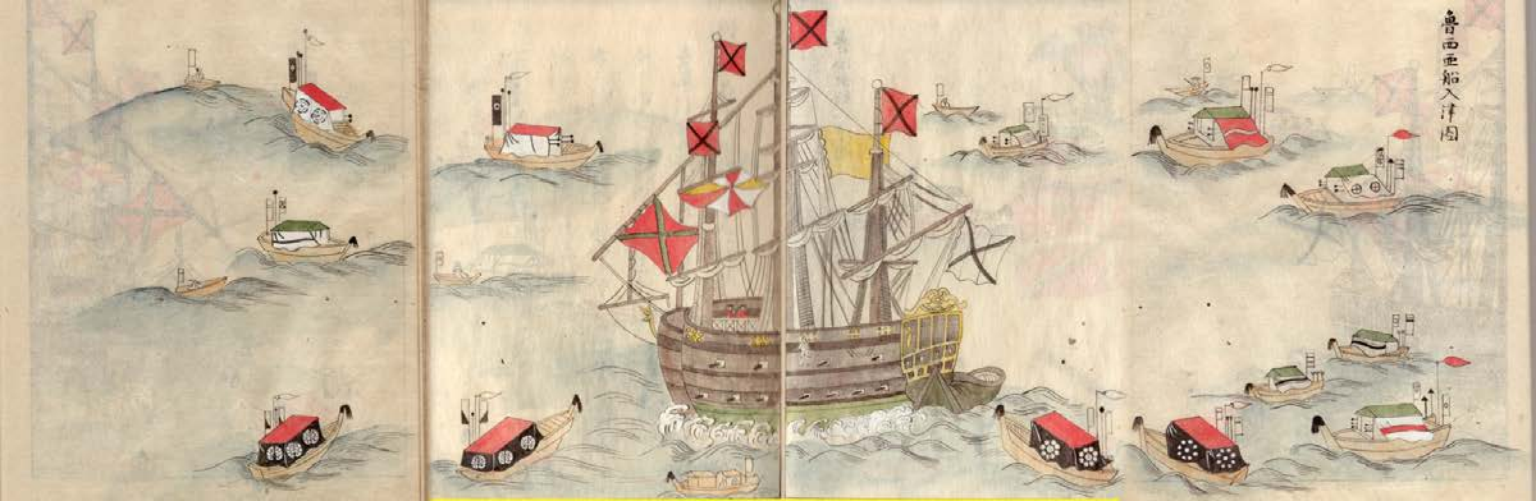
ニルケイサ嶋船図

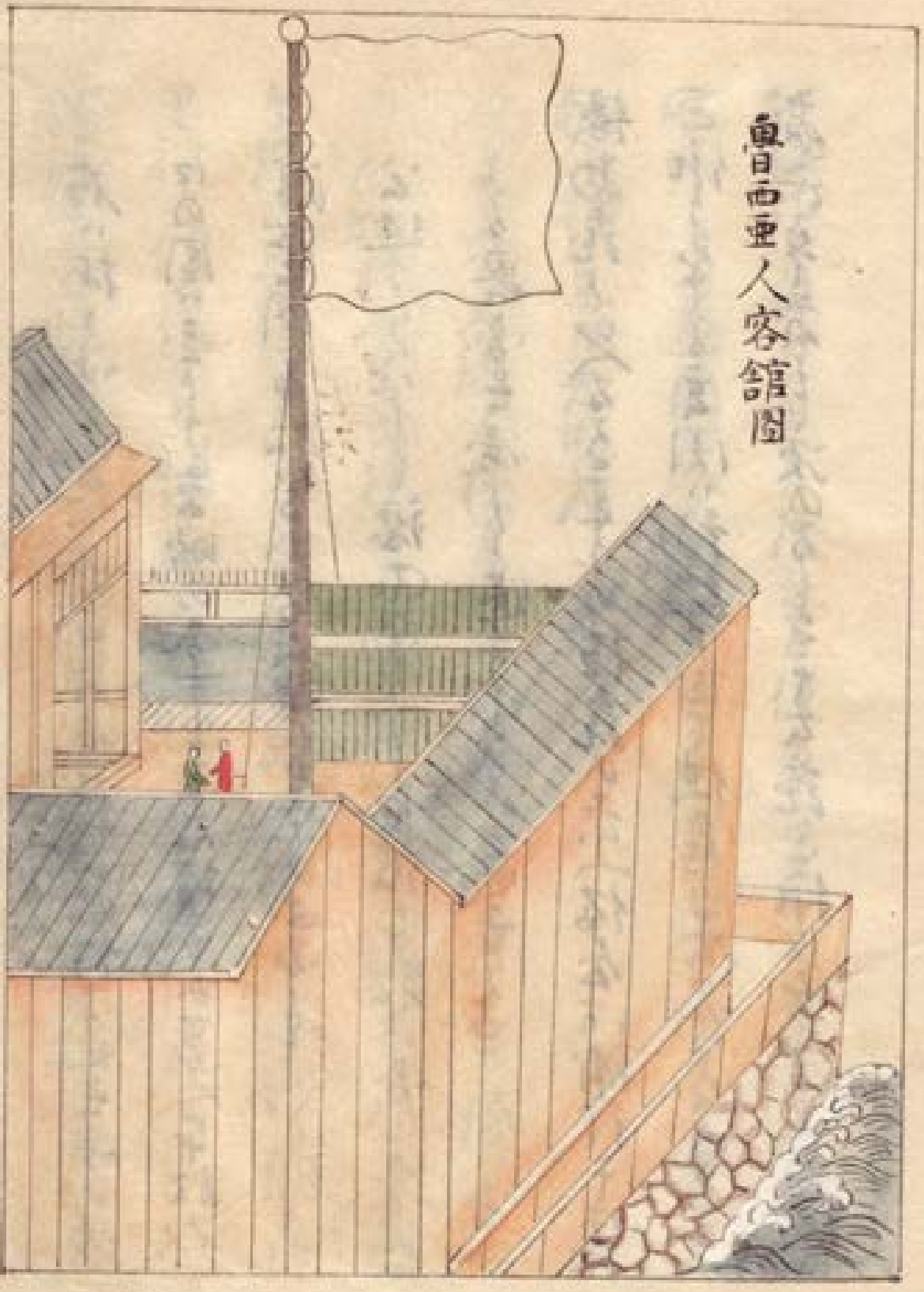
サンペイツヶ島人男女図



長崎湊口圖

魯西亞國船印小旗号


魯西亜船入津図


魯西亞人客館圖

使節レサノツト等之像

并冠帽諸図

ニコラ レサノツト　歳四十一

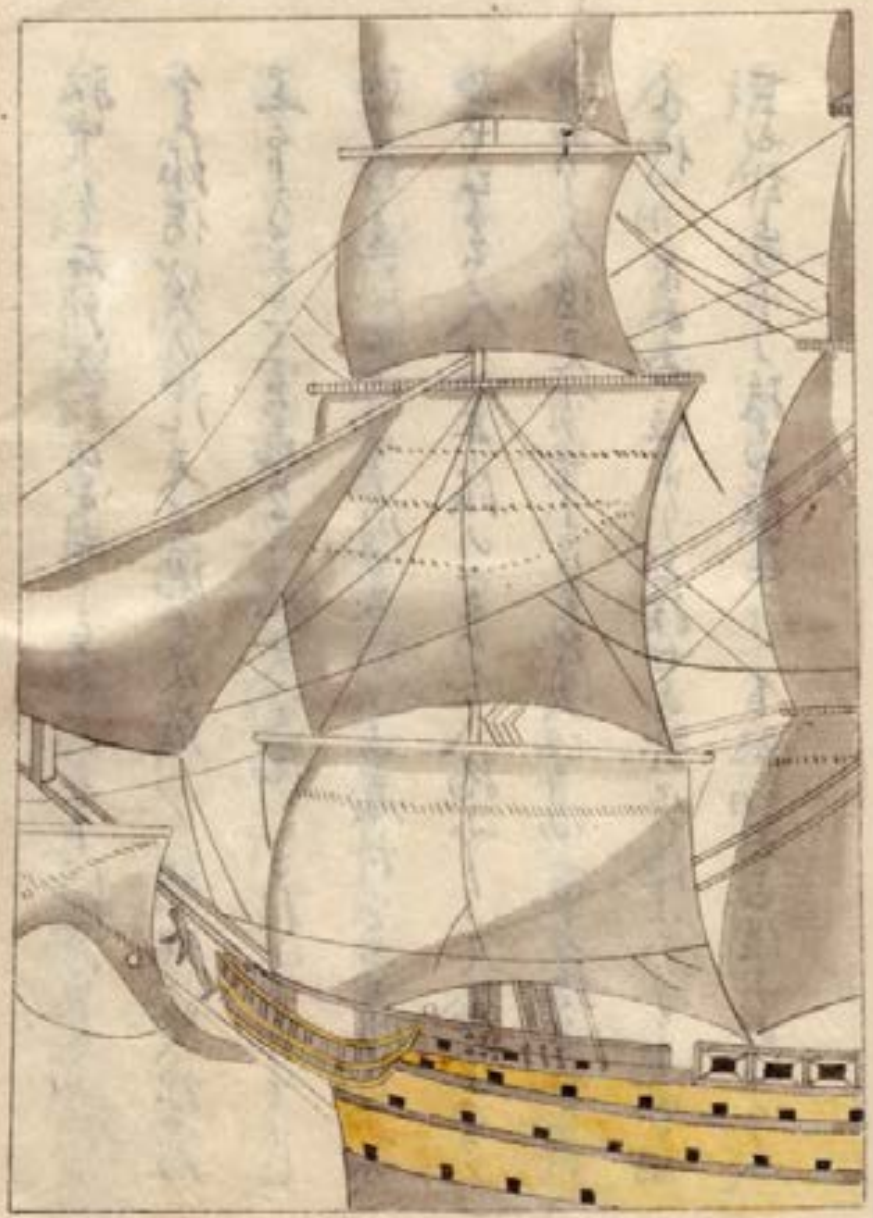
上案針役　歳三十四
ラートマリア

歩卒

呈種仙とも對の衣服之濃爾黄展紗之其内大鼓とおつ者ハ別座也
ぬ野神の呈種計人つゝ使長の前座の内ニ鞍座ニ取扱ふ

冠帽

拔乙蛤鹿
漁机



新造軍船圖